

2. パネル回答者の生活復興感の推移

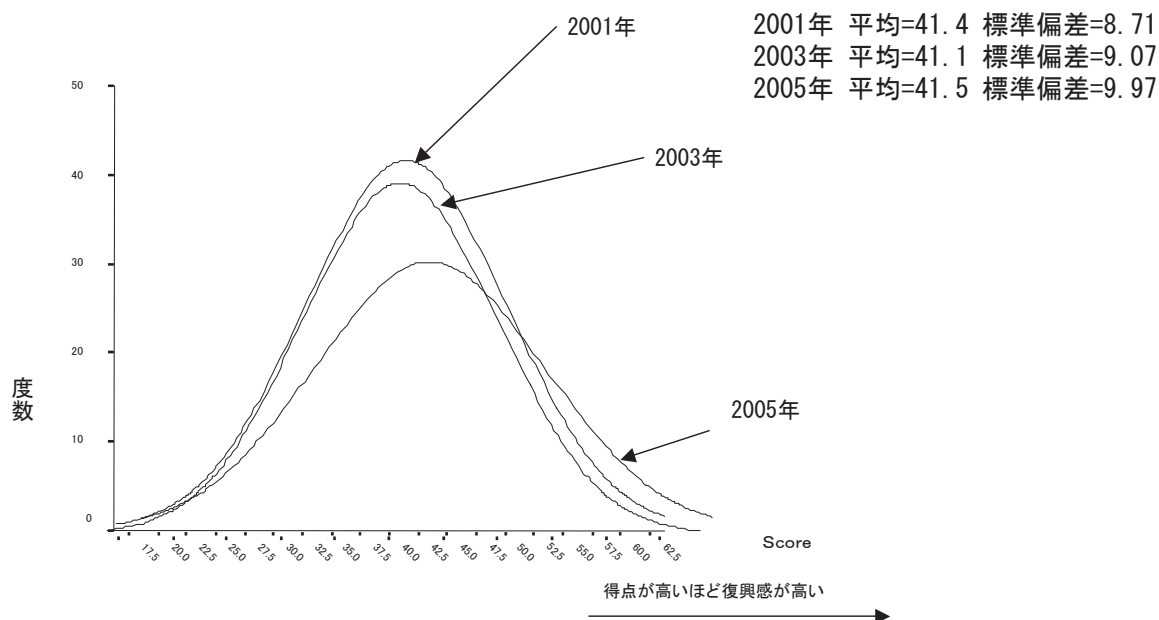
パネル回答者の生活復興感の全体傾向について把握するため、2001年、2003年、2005年調査での得点分布の比較を行った。

具体的な方法としては、それぞれの調査での生活復興感に関する14設問に対する回答を得点化して各年の生活復興感得点とし、パネル回答者の生活復興感が3時点でどのように推移したのかについて把握することを試みた。

その結果、3時点における生活復興感には、統計的に意味のある差異はみられなかった（反復測定による1元配置分散分析 $F(2, 297) = 0.505, NS$ ）。

生活復興感の平均値は、2001年が41.4、2003年が41.1、2005年が41.5であり、標準偏差は2001年が8.71、2003年が9.07、2005年が9.97であった。

このことから、3時点において、生活復興感は全体としてはほとんど変化がなかったが、その分布については、2005年において特にばらつきが大きくなったといえる。すなわち、被災者の生活復興感は、全体としては安定しているが、その一方で、生活復興感が上昇している人と下降している人との差が広がっていることがうかがわれる。



反復測定による1元配置の分散分析 $F(2, 297) = 0.505, n.s$

図4-12 パネル回答(N=297)の3時点における生活復興感得点分布

3. 被災者の生活復興パターン

パネル回答者の生活復興感の推移について詳細な分析を行い、どのような人の生活復興感が2001年から2005年の間に上昇もしくは下降しているのかについて分析を試みた。

図4-13は、パネル回答者297名一人ひとりの2001年、2003年、2005年における生活復興感の得点の推移をグラフ化したものである。

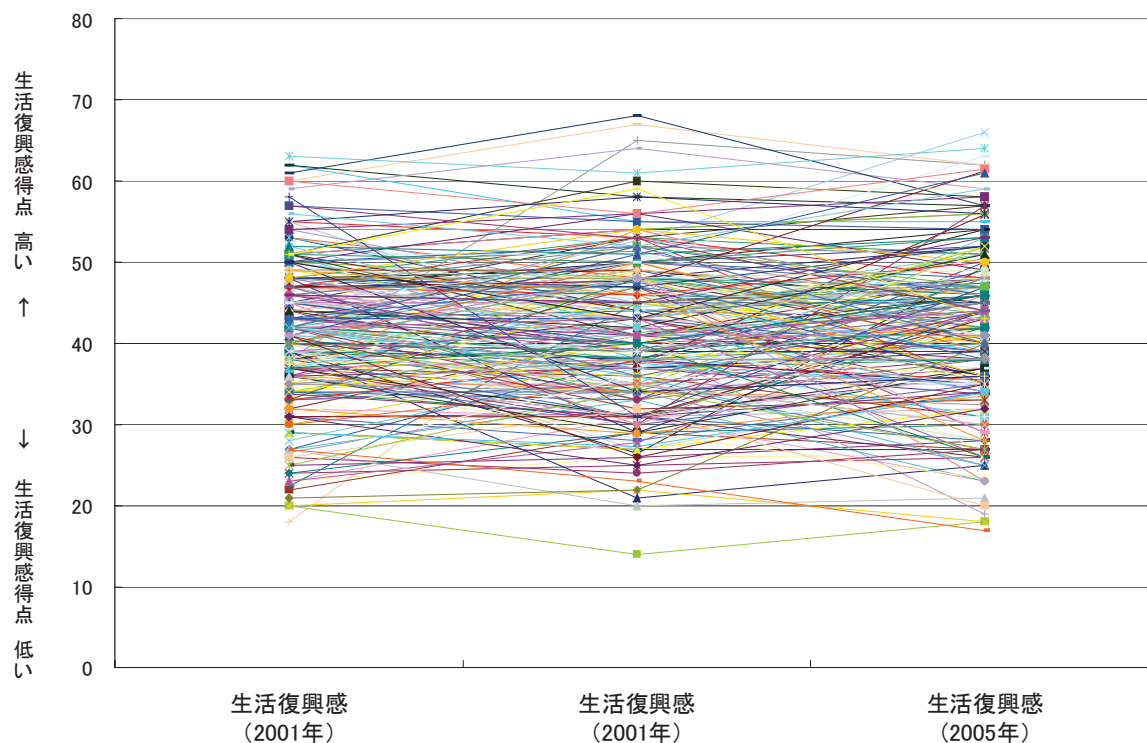


図4-13 生活復興感の得点推移 (N=297)

この生活復興感の推移をパターン化するため、パネル回答者の生活復興感の得点推移について、クラスター分析（似通った回答傾向の回答者を束ねる分析手法、Ward法、平方ユークリッド距離）を行った。

その結果、パネル回答者の生活復興感の推移は、図4-14のように「4つのパターン」に明瞭に集約された。すなわち、被災後6年が経過した2001年1月時点から被災後10年が経過した2005年1月時点にかけての4年間における被災者の生活復興感の推移は、4パターンに分類できることが明らかになった（反復測定による1元配置分散分析($F(3, 293) = 458.287, p < .001$)）。

そこで、4つの生活復興パターンについて、3時点における生活復興感の高い順に、「プラスプラス(++)タイプ」、「プラス(+)タイプ」、「マイナス(-)タイプ」、「マイナスマイナス(--)タイプ」と名付けた。

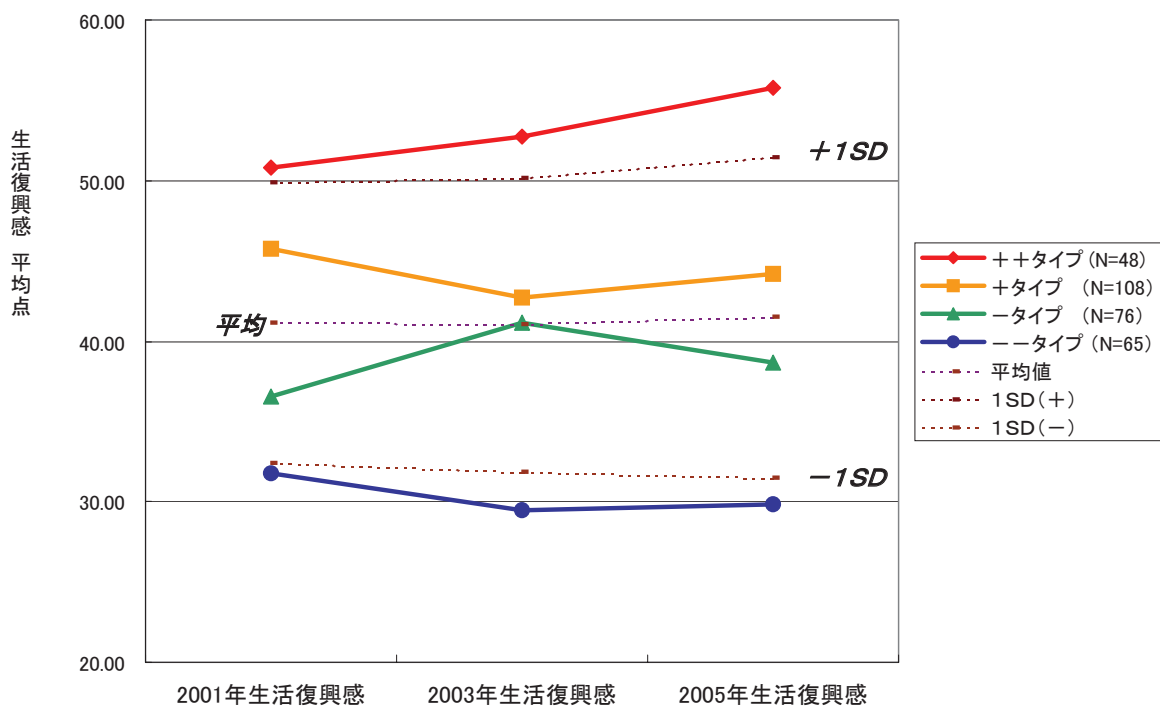


図 4-14 3時点における、4パターンごとの生活復興感得点の推移 (N=297)

表 4-2 生活復興 4 パターン (生活復興感の平均値の推移)

	2001年 生活復興感	2003年 生活復興感	2005年 生活復興感
++タイプ (N=48)	50.8	52.8	55.8
+タイプ (N=108)	45.7	42.7	44.2
-タイプ (N=76)	36.6	41.2	38.6
--タイプ (N=65)	31.7	29.5	29.8

4つの生活復興パターンのそれぞれの特徴は、以下のとおりである。

なお、4つのパターンは3時点の途中で交差することはなく、非常に安定した傾向を示している。

① プラスプラス (++)タイプ：3時点ともに生活復興感が最も高いタイプ

プラスプラス(++)タイプは、生活復興感得点が3時点ともに+1標準偏差以上に付置しているパターンであり、4つのタイプの中で最も高い生活復興パターンである。

なお、このパターン的人是、297名のうち48名(16.1%)である。

②プラス（+）タイプ：3時点ともに生活復興感が平均以上で安定しているタイプ

プラス（+）タイプは、生活復興感得点が3時点ともに平均以上+1標準偏差以下の間でずっと安定しているパターンであり、平均以上で安定的な生活復興パターンである。

なお、このパターンの人は、297名のうち108名（36.4%）である。

③マイナス（-）タイプ：3時点ともに生活復興感が平均以下で安定しているタイプ

マイナス（-）タイプは、生活復興感が3時点ともに-1標準偏差以上平均点以下の間にあるタイプであり、平均以下で安定的な生活復興パターンである。

なお、このパターンの人は、297名のうち76名（25.6%）である。

④マイナス、マイナス（--）タイプ：3時点ともに生活復興感が非常に低いタイプ

マイナスマイナス（--）タイプは、生活復興感が3時点ともに-1標準偏差以下に付置しているパターンであり、4つのタイプの中で最も低い生活復興パターンである。

なお、このパターンは、297名のうち65名（21.9%）である。

4. 生活復興パターンと属性、被害程度、生活再建課題7要素との関連

4つの生活復興パターンと被災者の属性、被害程度、生活再建課題7要素との関連について、クロス集計による分析を行った。

表4-3は、それぞれのクロス集計結果をまとめたものである。

表4-3 4つの生活復興パターンと関連のある要因（クロス集計結果まとめ）

			χ^2	df	P	
属性		性別	13.87	3	0.00	***
		職業（2001年）	38.03	21	0.01	**
		職業（2005年）	38.92	24	0.03	**
被害		人的被害	6.62	3	0.09	*
		家財被害	16.36	9	0.06	**
生活再建7要素	すまい	居住形態（2005年）	37.78	21	0.01	**
	つながり	近所づきあい・地域活動参加	23.17	9	0.01	**
		社会的信頼	32.84	9	0.00	***
	まち	まちのコモンズ認知	19.78	9	0.02	**
	こころとからだ	からだのストレス	79.83	9	0.00	***
		こころのストレス	58.50	9	0.00	***
	くらしむき	世帯年収（2005）	38.48	6	0.00	***
		震災による職場被害の有無	8.58	3	0.04	**

*** = $p < 0.01$ ** = $p < 0.05$ * = $p < 0.1$

1) 被災者の属性、被害程度との関連

生活復興パターンと性別、被害程度との関連について調べた。

①性別との関連

生活復興パターンと性別との関連をみると、++タイプは、女性が62.5%、男性が37.5%と女性が多く、--タイプの方は、男性が70.8%、女性が29.2%と男性が多かった。

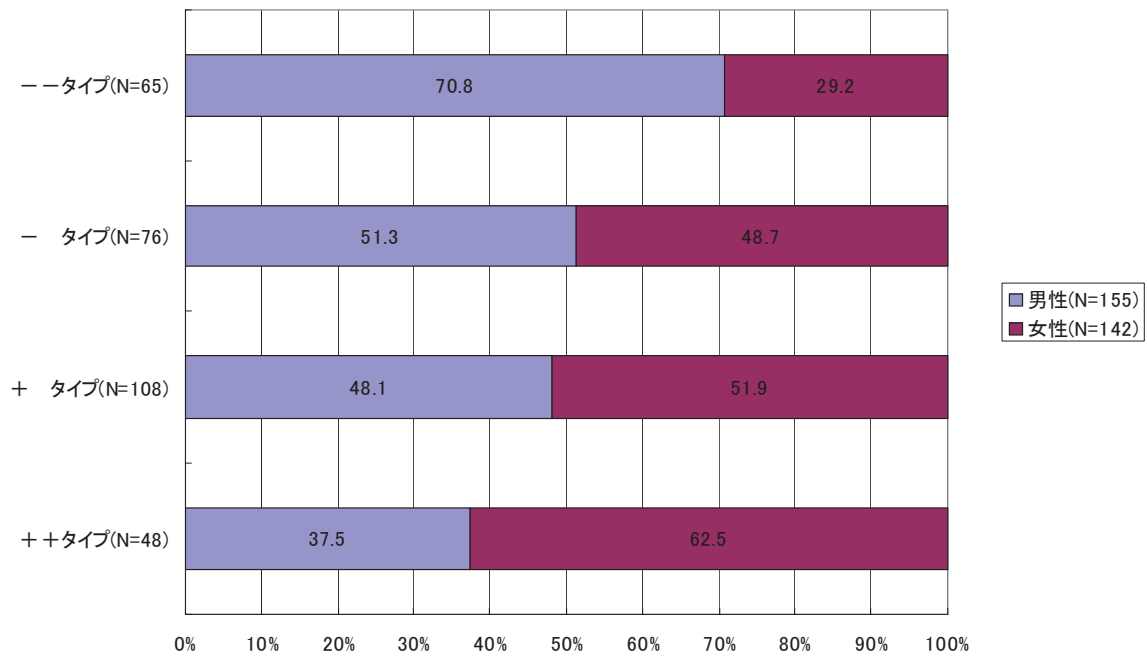


図 4-15 生活復興パターン（性別）

②人的被害との関連

生活復興パターンと人的被害との関連をみると、震災で人的な被害があった人は--タイプが多く、++タイプが少なかった。

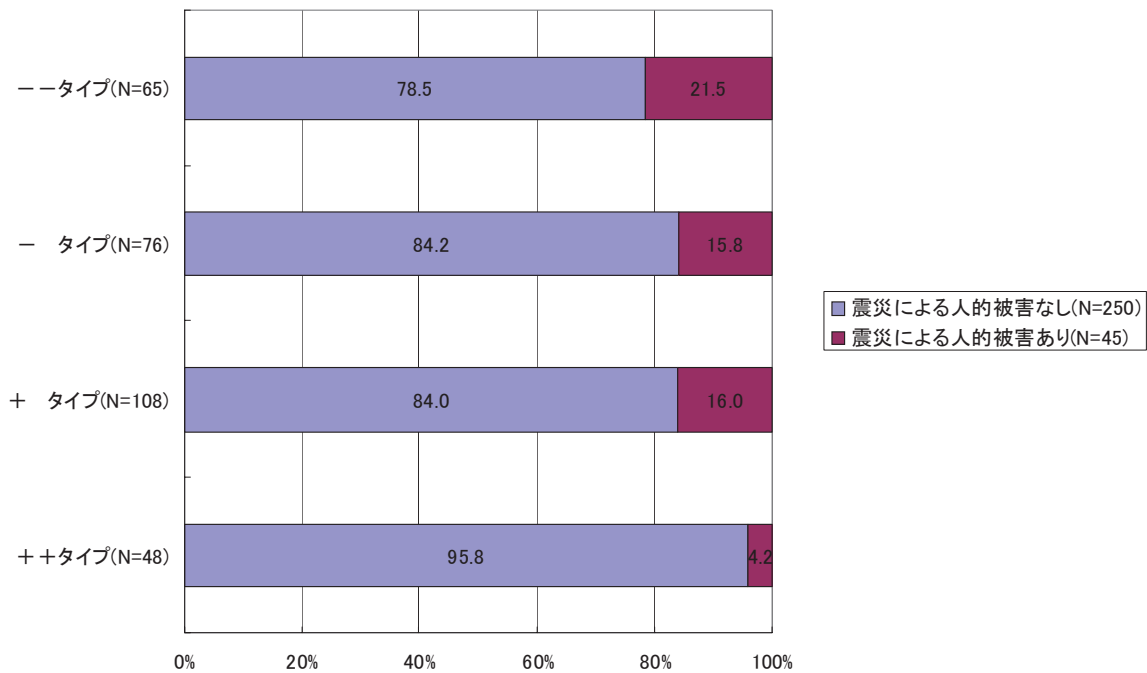


図 4-16 生活復興パターン（人的被害の有無）

③家財被害との関連

生活復興パターンと震災で受けた家財被害との関連をみると、全部被害のあった人は――タイプが多く、被害なしの人は++タイプが多かった。

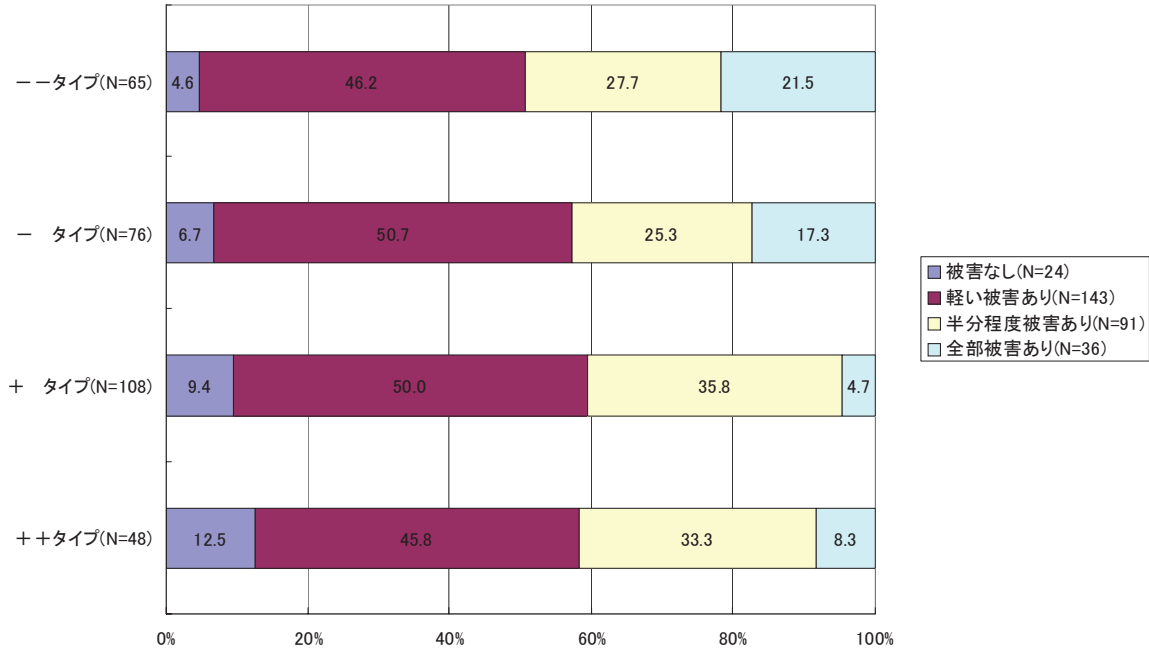


図 4-17 生活復興パターン（家財被害）

2) 生活再建課題 7 要素との関連

①「すまい（居住形態）」との関連

生活復興パターンと現在の居住形態との関連をみると、公営住宅に居住している人は――タイプが多く、持地持家に居住している人は++タイプが多かった。

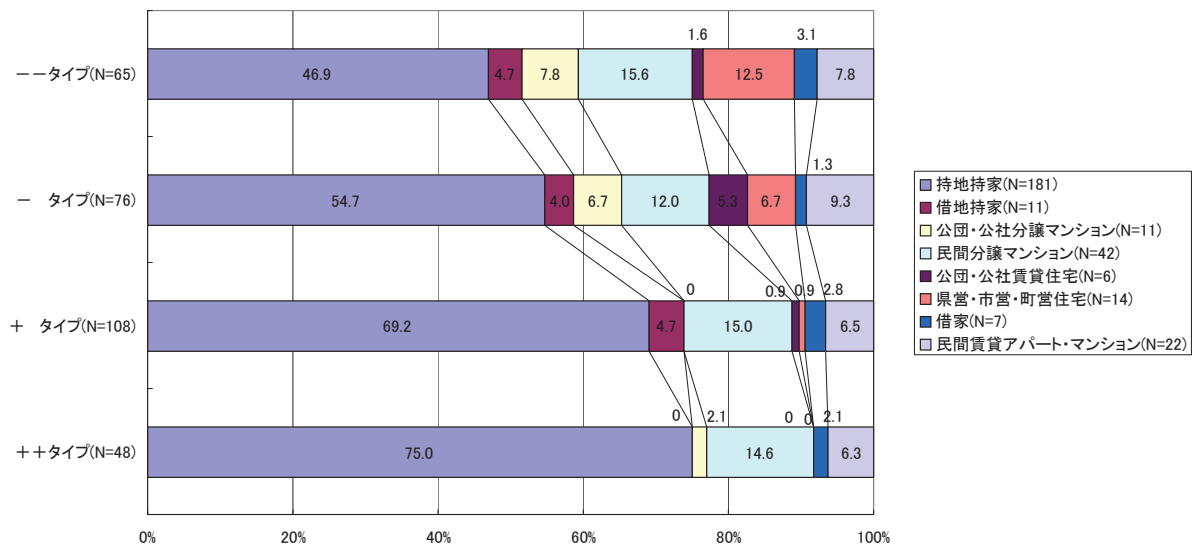


図 4-18 生活復興パターン（2005 年居住形態）

②「つながり」との関連

ア. 市民性との関連

生活復興パターンと市民性との関連をみると、市民性が高い（自律・連帯の意識が強い）人は++タイプが多く、市民性が低い人は--タイプが多かった。

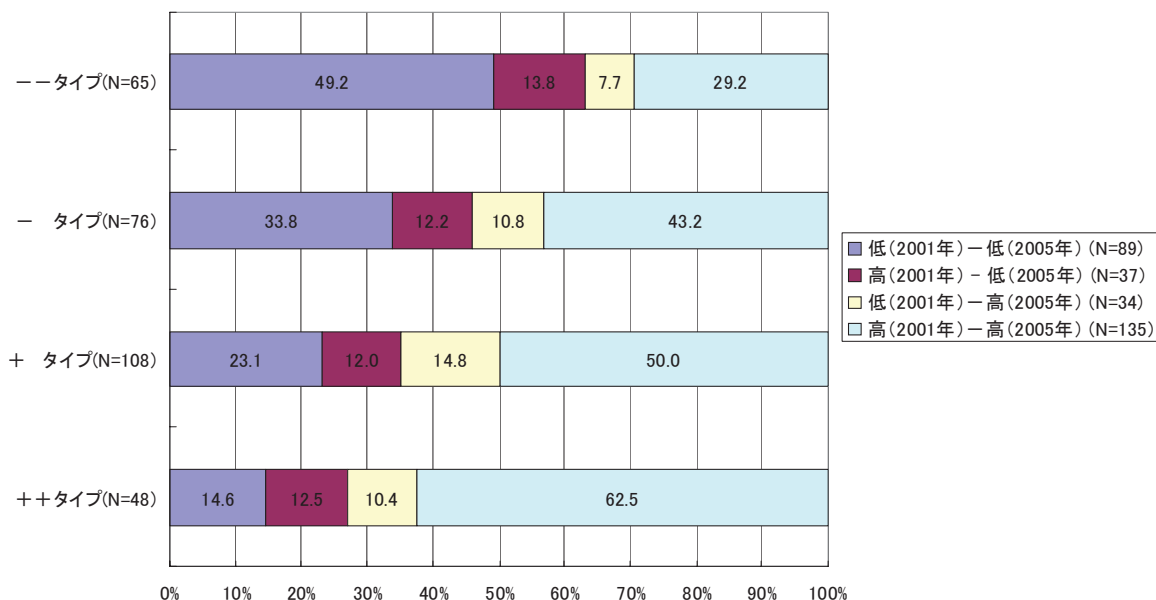


図 4-19 生活復興パターン（2001～2005年市民性変化）

イ. 社会的信頼（社会に対する信頼意識）との関連

生活復興パターンと社会に対する信頼意識との関連をみると、社会に対する信頼の意識が高い（「他者は基本的に正直である」「ほとんどの人は信頼できる」と思っている）人は++タイプが多く、信頼意識の低い人は--タイプが多かった。

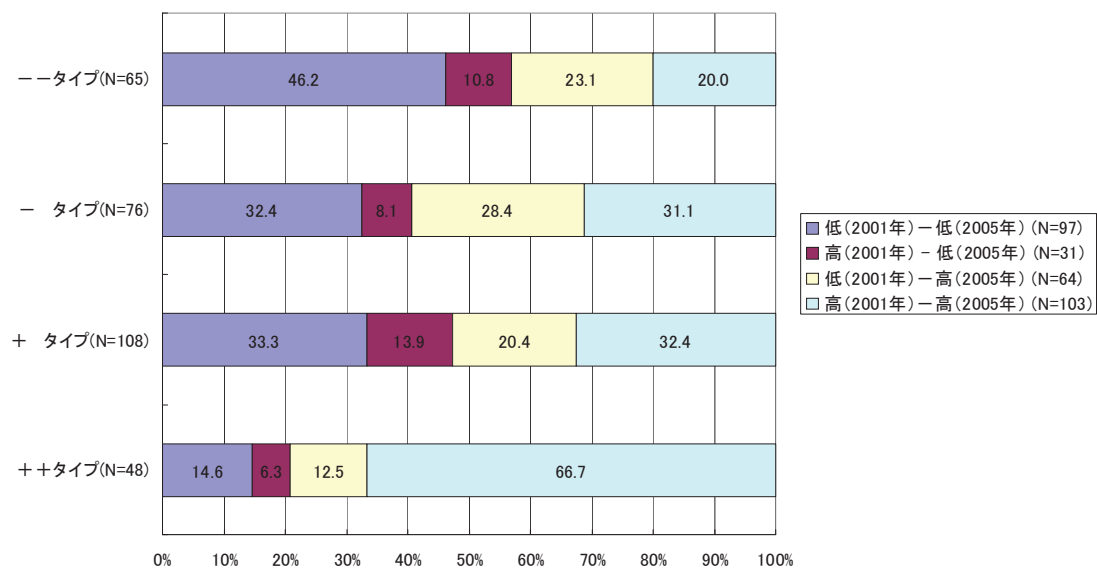


図 4-20 生活復興パターン（2001～2005年社会的信頼変化）

③「まち（まちの共有物（コモンズ）の認知や愛着）」との関連

生活復興パターンとまちの共有物（公園、街並み、みんなが気軽に集まれる場所など）の認知・愛着の度合いとの関連をみると、まちの共有物の認知・愛着の意識が高い人は++タイプが多かった。

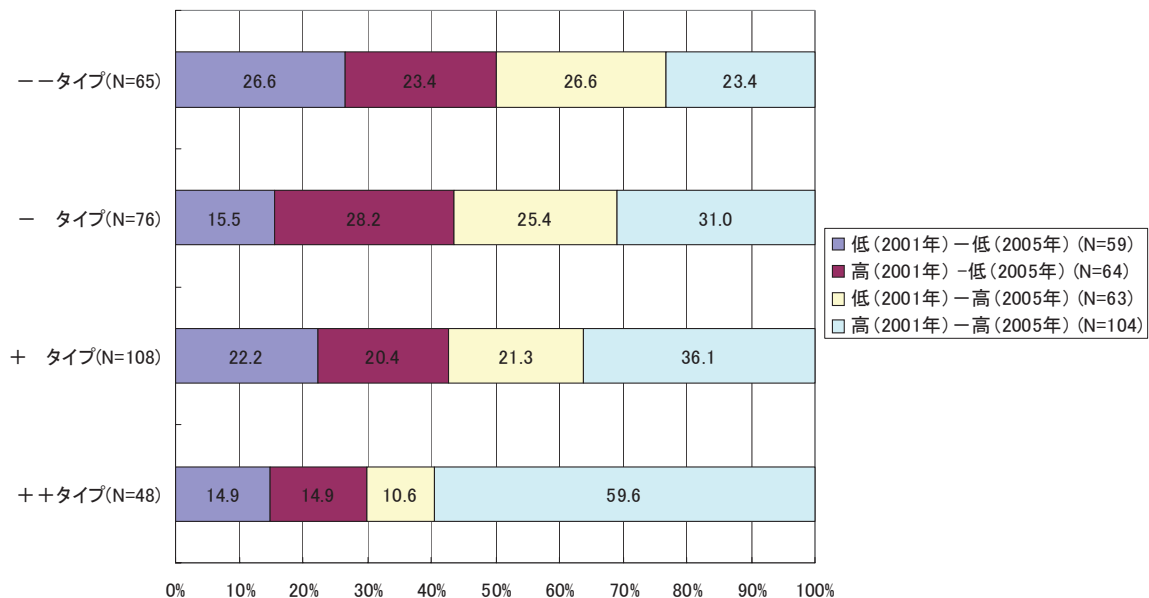


図 4-21 生活復興パターン（2001～2005 年まちのコモンズ認知変化）

④「こころとからだ（ストレス）」との関連

生活復興パターンとこころとからだのストレスとの関連をみると、こころとからだのストレス度合いが高い人は---タイプが多く、ストレス度合いが低い人は++タイプが多かった。

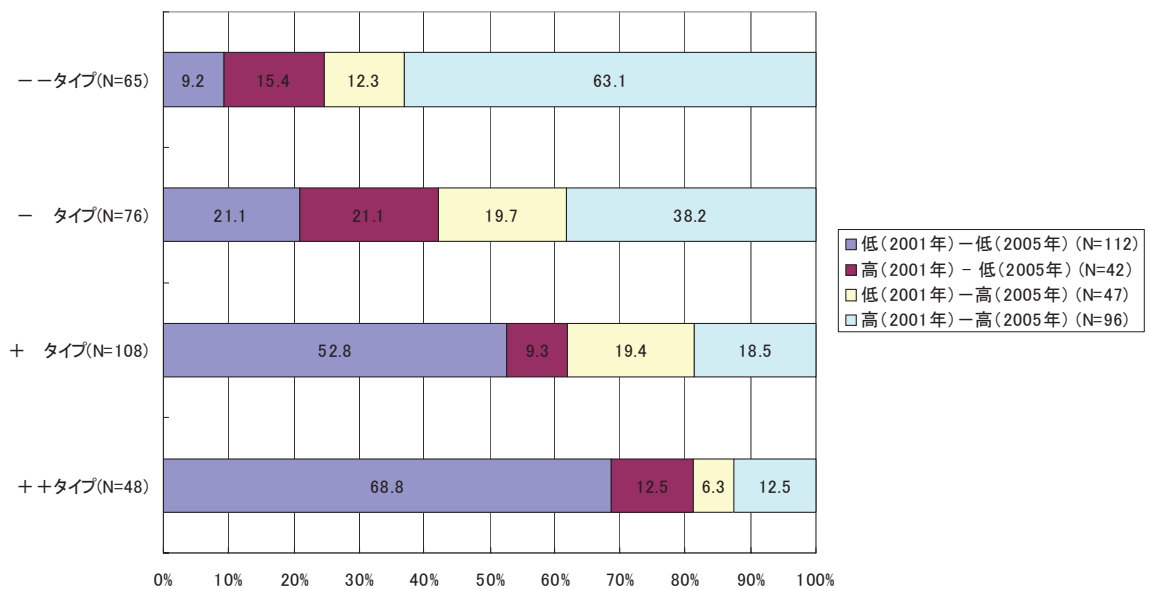


図 4-22 生活復興パターン（2001～2005 年こころのストレス変化）

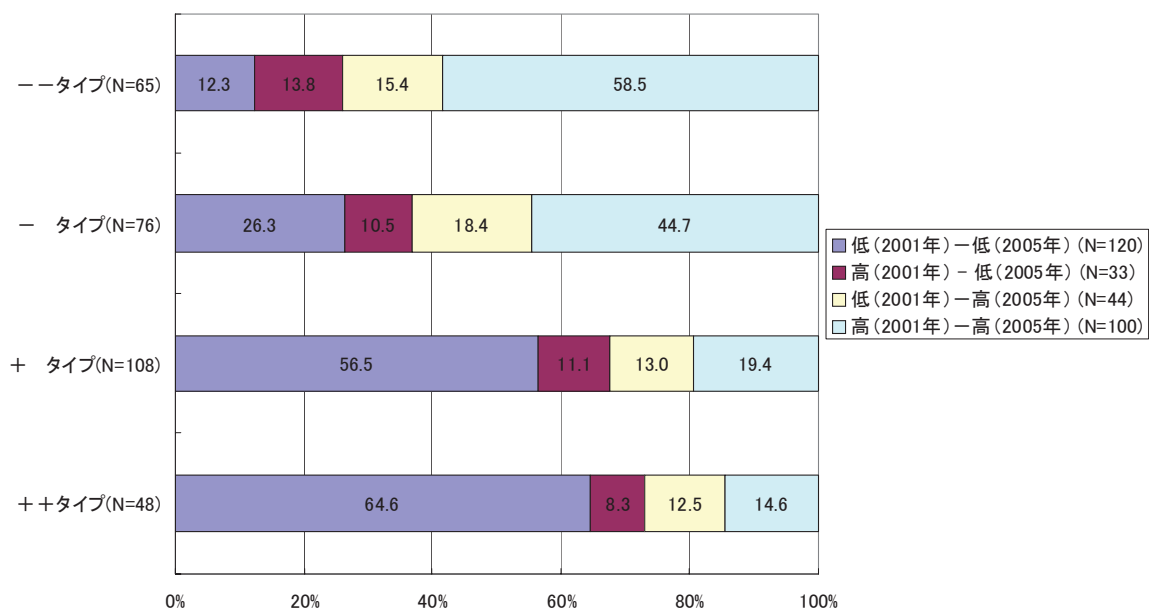


図 4-23 生活復興パターン (2001~2005 年からだのストレス変化)

⑤ 「くらしむき」との関係

ア. 職業との関係

生活復興パターンと職業 (2001 年調査時点) との関係を見ると、主婦は++タイプ、管理職は+タイプが多かった。また、商工自営業者、サービス関連従事者、無職は--タイプが多かった。

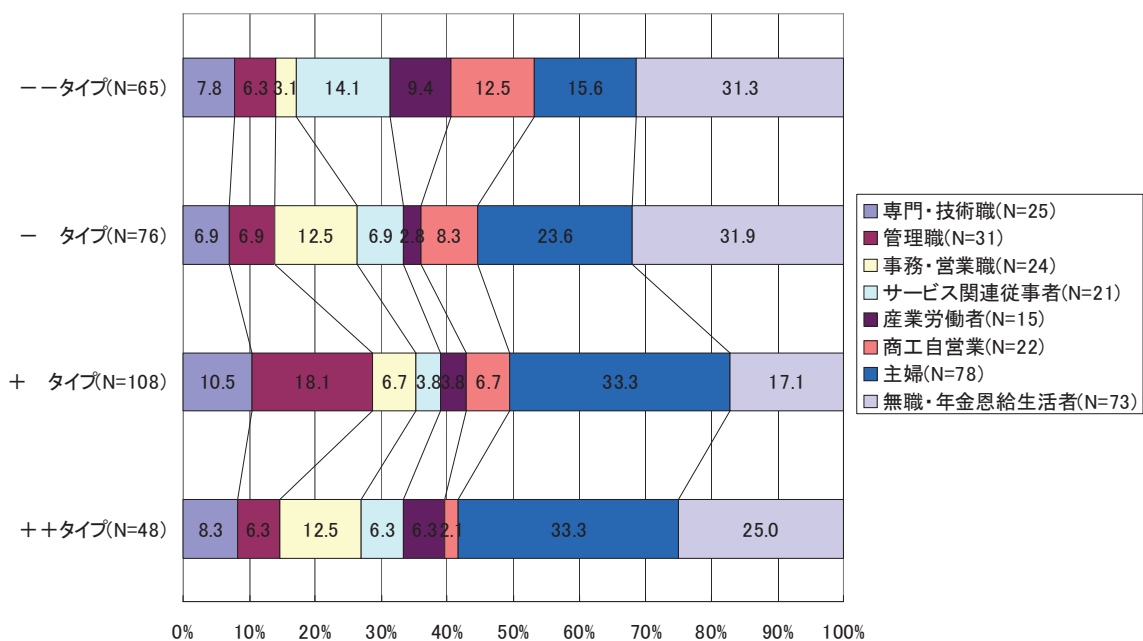


図 4-24 生活復興パターン (2001 年職業)

イ. 震災による職場の被害との関連

生活復興パターンと震災による職場の被害との関連をみると、職場が震災による被害を受けた人はータイプが多かった。

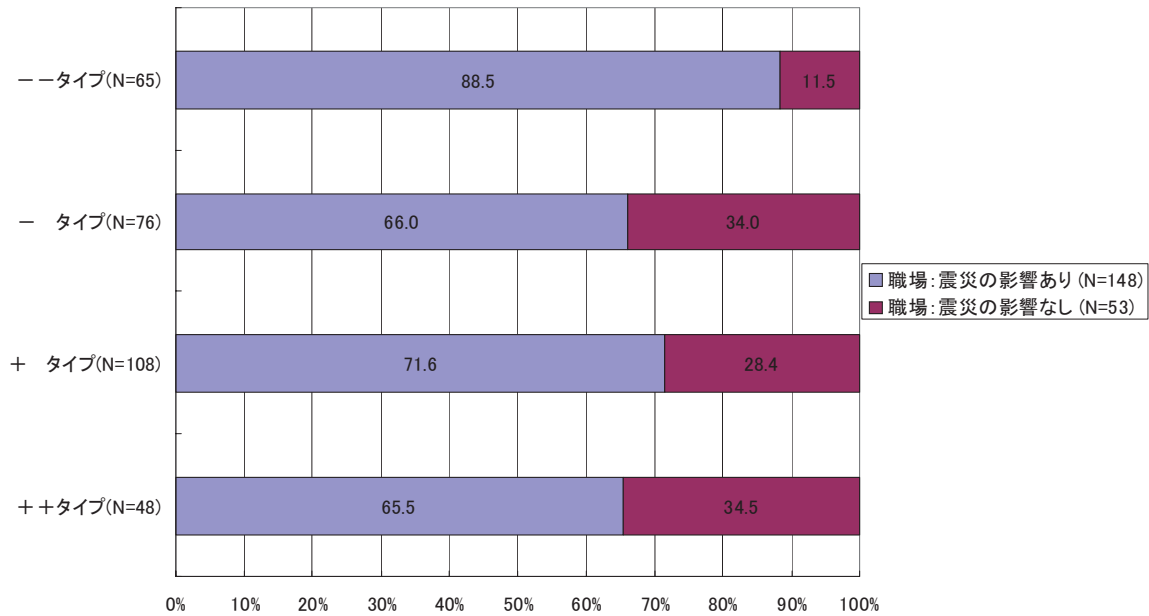


図 4-25 生活復興パターン（震災による職場被害有無）

ウ. 世帯収入との関連

生活復興パターンと震災後の世帯収入の増減との関連をみると、震災後、収入が増加した人は++タイプが多く、収入が減少した人はータイプが多かった。

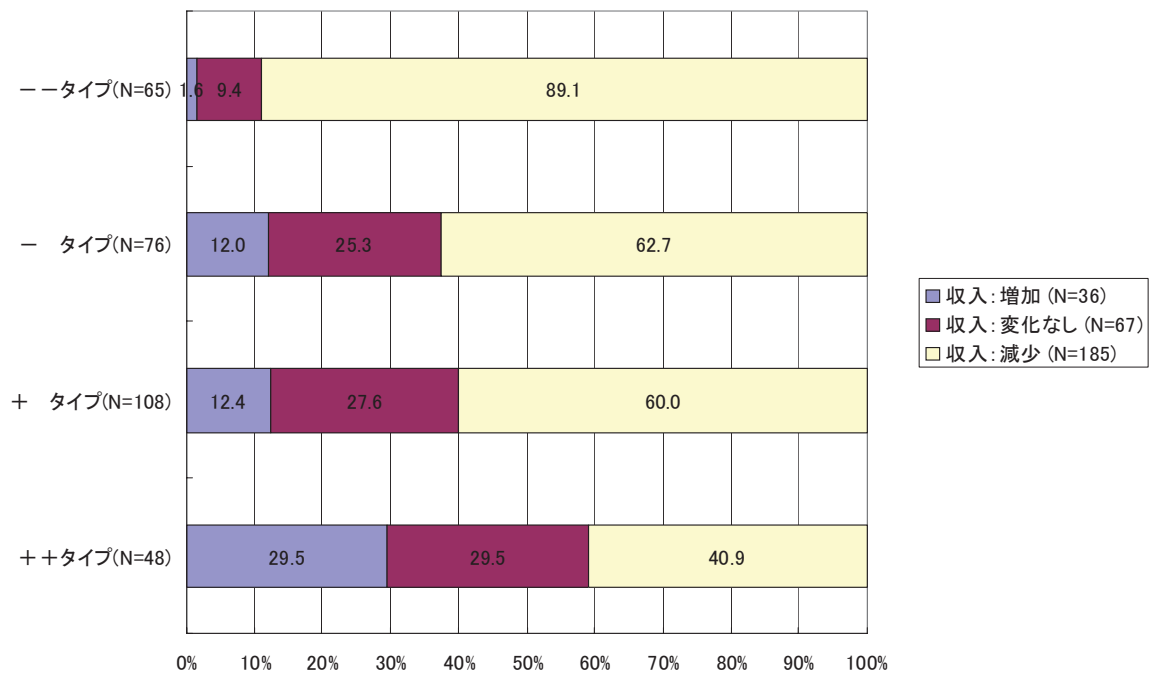


図 4-26 生活復興パターン（世帯収入変化）